

在宅介護の快適性を追求

シーホネンス

在宅介護向けベッド「Emi」発売へ

在宅介護向けベッド「Emi」(エミ)



を搭載したハイエンドモデルとなっている。

Emiは誤嚥リスクを低減する「ADLボジション」が設定できる。これにより、頭頸部を0〜30度に調整できるの、ベッドの上で飲み込みに適したあごを引いた姿勢が取れ、誤嚥による誤嚥性肺炎の発症リスクを低減する。

頭頸部を0〜50度に調整できる「QOLボジション」は、目線が前を向くため、家族とのコミュニケーションが取りやすい。コロナ

医療・介護用ベッドメーカーのシーホネンス(社長)増本龍樹氏、大阪市東成区)は、新型在宅介護向けベッド「Emi(エミ)」を9月から発売する。Emiは利用者と介助者、福祉用具事業者に「笑顔」になつてもらうため「快適」「安全」「簡単」をコンセプトに開発。あらゆる機能

時代には自宅で過ごす時間が増加することを踏まえ、ベッド上での快適性を追求した。床ずれリスクを軽減する「スイングバック機能」は、背上げ時に背ボトム支点が後ろに8°スイングすることで、ズレない背上げを実現する。

液晶手元スイッチは操作しやすいユニバーサルデザインで、頭・背・足・高さ、全ての数値の液晶表示が可能。ベッド操作は音声案内により、誤操作を防止できる。液晶表示

のカラーリングは視認性の高い黒ベースに白文字を採用した。在宅介護ケアの質向上に役立つ操作履歴表示も可能だ。これにより、例えば足上げの操作が使われた回数や時間をモニタリングすることが可能になる。

在宅介護の環境に合わせてベッド床高を変えられる「スパーモジュール機能」を搭載。組み立て時に脚座の差し込み方向を縦・横と変えるだけで、ベッド床高を低床タイプ(床高25・67・5°)、超低床タイプ(床高20・62・5°)に、それぞれ設定できる。

また、ベッドの長さを利用者の身長や、部屋のスペースに合わせて工具なしで、ロング(205°)、レギュラー(191°)、ショート(181°)の3つの長さに調整できる。

Emiに関する問い合わせは同社の営業支援室(☎06-6973-3471)まで。